

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491500021		
法人名	社会福祉法人 大崎市社会福祉協議会		
事業所名	認知症グループホーム 和楽路		
所在地	宮城県大崎市鹿島台広長字尻掛杉ヶ崎7番地1		
自己評価作成日	令和2年10月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2020年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家庭的な環境の下で、健康でその人らしく生活が送られ、楽しく過ごす事が出来ます」という理念通り、利用者様がゆったり、のんびりと生活して頂いております。また畑を作り、皆で収穫できる喜びを共有しております。笑顔が多く見られ、楽しく過ごされるよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鹿島台広長地区の高台に位置した平屋建て1ユニットの事業所は開設14年を迎えた。大崎市社会福祉協議会が運営する事業所で、法人のバックアップ体制、地域や市との連携体制が構築されている。町内会に加入し地域との関わりを大切にしている。地域住民の協力による草刈りなどの定期的な環境整備や、花や野菜作りなど日頃から交流を行っている。玄関の「和楽路」の看板を地域・家族の要望でわかりやすく改善した。職員は「家庭的な環境の下で、健康でその人らしく生活が送られ、楽しく過ごす事が出来ます」という理念を基に、利用者とその人らしく楽しく生活出来るよう支援している。家族報告会や満足度調査を行い、家族からの意見も聞きとり、利用者本位のケアを充実するように努めている。新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと行い、家族との面会が出来るように面会室を設けた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 鹿島台支所グループホーム和楽路 ）「ユニット名」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度始めに理念について話し合いを持ち、継続が望ましいのか話し合います。家庭的な環境の下で健康でその人らしく生活が送られ、楽しく過ごす事ができますを理念に抱え支援しております	理念は、職員が年度初めのホーム会議で話し合い確認している。ホールと事務所に掲示しケアの実践に活かしている。利用者一人ひとりが日常の中で、役割を持って楽しく生活出来るように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お茶会や夏祭りを開催する事により、地域の方と交流する機会を持っております。また建物周辺の環境整備は地域の方々の協力を頂いております。	町内会に加入しており、回覧が届き地域の情報を得ている。地域交流の場として、例年はお茶会や夏祭りを開催していたが、今年度はコロナ禍で中止した。地域住民の厚意で、敷地内の草刈りなど、環境整備の協力が定期的に得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お茶会等では、講話を設け、地域の方々が積極的に参加して頂ける様努めております。また避難訓練では近隣の方々の協力を頂き避難訓練を行っております。消火器の使用方法等学びました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回開催し、日々の生活の様子や事業報告等行い、現状をお伝えし意見等を頂きサービス向上を心掛けております。	隔月、区長、民生委員、地域包括職員、利用者、家族代表、社協支所長、管理者が参加し開催している。利用者の状況や事業内容などの報告後、意見交換し情報共有している。新型コロナウイルス感染防止の為、今年度は郵送し情報共有を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域支援センター職員を運営推進委員会の委員を引き受けて頂き事業所の運営を報告しております。	母体の社協と市担当者が連携しており、外部評価には市の高齢介護課職員が同席した。昨年の大型台風後には、利用者の自宅の状況を報告し減免の手続きをしたり、コロナ禍で必要な物品はないかなど、問い合わせがあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム会議や委員会にて身体拘束防止について研修し職員全員が理解するよう徹底しております。	身体拘束ゼロへの手引きを基に、毎月のホーム会議や委員会で研修し、身体拘束をしないケアを行うための対策の検討も定期的に行っている。外出要求が強い場合には、職員と散歩したり、ウッドデッキに出て気分転換をしている。防犯のため夜間のみ施錠、防犯カメラも設置している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム会議で高齢者虐待について学び、職員全員での情報共有に努めております。	高齢者虐待防止について、ホーム会議で職員が順番に講師になり資料を配布し研修している。管理者は、職員の不適切な言葉遣いやケアがないか注意を払い、防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム会議で人権擁護について再度研修しております。随時利用者様のケアの見直しを行い個々に合った支援を心掛けております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や重要事項変更の際は十分にご家族様に説明し納得された上で捺印、署名を頂いております。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族報告会の開催や満足度調査でアンケートを行い、利用者様やご家族様より意見を頂く機会を設けております。また市より相談員が来館し利用者様のお話を聞いて頂いております。	家族報告会や満足度調査を行っている。事業所内の環境について家族から意見があり、検討し改善に繋げた。お便りに職員の写真を載せて欲しいとの要望等があり検討した。市が「あんしん介護相談員」を派遣し利用者からの話を聞いている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のホーム会議と経営会議を開催し運営に関する報告や意見を話し合っております。	毎月のホーム会議、経営会議で事業運営について話し合っている。職員は気付いた事を「わらじノート」に記入し情報共有している。休憩時間についてや入浴介助時に危険のないよう2人体制で介助する事など、業務の改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に三回自己評価を行い職員の状況を把握し、また年に一回のストレスチェックを行い職員のストレス確認をしております。また年休やリフレッシュ休暇の積極的な取得を行ってます		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に三回の自己評価での目標や受講したい研修を把握し積極的に受講して頂ける様努めてます。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	宮城県認知症グループホーム協議会に入会しグループホームの取り組み等の情報共有に努めてます	宮城県認知症グループホーム協議会や、社協の交流会で意見交換を行い情報共有している。書類の様式を統一した方が良いのではないかなどの意見があり、ケア質の向上に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に気にかけて、不安を抱く前に話しかけや傾聴し安心して生活して頂けるよう努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とお話する機会がある際は、不安な事や気になる事を伺い、相談に応じております		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の意向を伺い、支援の優先順位を把握し対応しております。随時優先順位の変更を行い臨機応変に必要な支援に対応しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を保ちつつ、洗濯物たたみや食器拭きを一緒にすることにより共に生活する同士の関係を築いております		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様とご家族様の双方の気持ちや意見を伺い利用者様と一緒に支える事に努めています		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気兼ねなく来館し面会できる環境づくり、雰囲気作りをしております	家族や近所の人などが面会に来ている。家族と外出、外食している利用者もいる。コロナ禍で面会出来ない時期もあったが、9月から和室(面会室)に直接入れるように階段や手摺り、アクリル板などで対策を講じながら面会できるようにした。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の個性を尊重し、楽しく利用者様同士が関わりを持てるよう努めております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	常に相談に応じる事が出来る様努めております		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様やご家族様の意向を伺いながら支援しております。また傾聴する事により気持ちを汲みとれるよう心掛けております	趣味や生活歴などや、日常の声かけを工夫して現在の希望や意向の把握に努めている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話により、本人様の生活してきた環境を少しでも把握し、会話等に反映し声掛けを行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活ペースを把握し、その人に合ったせいかつのサポートを心掛けております。また出来る事は積極的に行って頂ける様努めております。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人一人の状況に合ったケアを随時話し合い、より良く生活できるよう努めております。	計画作成担当者が、介護職員としてもシフトに入っているため、具体的に必要な支援が把握でき、これを反映した介護計画を作成している。3ヶ月に1回計画の見直しを行い、利用者、家族から意向を聞いて作成し、説明を行い同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日利用者様の様子を記録誌、また毎月開催しているホーム会議では個々にケアの統一やケアの変更を話し合っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近隣のつ通院だけではなく遠方の通院にも対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアをお呼びし、楽しい時間を過ごして頂いています。また、民生委員の協力もとお茶会などの楽しい時間を過ごして頂いております。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に通院しております。また随時体調の変化のあった際は、家族の了解のもと通院しております。	定期的に協力医療機関(内科)のかかりつけ医に職員が同行して受診している。内科以外の精神科、皮膚科なども家族に連絡して職員が同行している。通院後には家族に様子を報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな気づきも職員間で情報を共有し、観察等行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際は、家族様と病院関係者と共に会議を開催し、今後もケアの方針等を決定しております		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化が見られた際は、家族様にその旨報告し、グループホームでの可能なケアはお伝えし、その後のケアについても説明し了承を得ております。	入居時に看取りをしていない旨や重度化した場合や終末期ケアについて、家族に説明している。重度化した場合には、家族に今後のケアについて再確認している。長期入院や医療行為が継続して必要な場合は特別養護老人ホームや病院に繋ぐなどの支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の研修や緊急時の対応について定期的に研修しております		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施しております。また地域の方々にも協力を依頼し共に訓練しております。	年2回避難訓練を実施し、10月は夜間想定訓練を行った。新型コロナウイルス感染症対策として、面会室の出入口に、アクリル板、ロールカーテン、サーキュレーターを設置し、消毒も行い徹底した取り組みを行っている。非常用食料や備品の備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いやケアの統一を図れるよう会議等で職員全員に共有しております。	接遇やプライバシー保護の研修を行っている。スピーチロックにならないように言葉遣いにも注意している。排泄介助や汚れた物の処理などをさりげなく、プライバシーに配慮した対応をしている。苗字か名前に「さん」付けて呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	随時本人様の思いを傾聴し普段より自己決定して頂けるよう支援しております		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の思いを優先に支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の部屋に鏡やくし等の整容がいつでも出来る様準備されています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	禁止食や苦手な食材は職員全員は把握し楽しく食事をして頂けるよう努めてます。片付け等を一緒に取り組んでおります。	利用者の残存能力を活かし、野菜の下処理、食器拭き、片付けなどを一緒に行っている。食事は職員が献立を考え手作りしている。畑やプランターで育てた野菜を皆で収穫し、食材に取り入れている。行事食も工夫して皆で楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重を測定し、一人ひとりの体調管理に留意しております。また、食材の大きさ等も利用者様に合わせた支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、は見学を行い、また夕食後は入れ歯洗浄をし、個々の口腔状況に応じて支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時、そして随時トイレへの案内を行い、トイレで排泄して頂けるよう支援しております。またトイレ回数や時間を記録しております	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導を利用者に合わせて行っている。食事に野菜、乳製品を多く取り入れて便秘対策も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認を行い、排泄パターンを把握するとともに、確実に排便がされているか個々に記録しております		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は本人様の身体の状況により回数の増減や部分浴に変更する事もあります。	基本3日に1回入浴できるようにしている。状態に合わせて、シャワー浴や足浴にしたり順番を変えて支援している。リフト浴にも対応できるようにしている。足ふきマットは都度交換している。入浴拒否の人には、声掛けを工夫したり、時間をおいて気分のいい時に誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は本人様の希望に合わせて支援しております。また安心して休まれる様、声掛けや照明の調整を行っております		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の文献は直ぐに確認できる様ファイルしております。また服薬の数量の変化があった際は薬箱に記載し、受薬の際、再確認できるよう取り組んでおります		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生け花や日常の軽作業に役割を持って頂き取り組んで頂いております。また畑仕事など趣味がある方には積極的に参加して頂いております		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換を兼ね、また季節を感じて頂ける様花見等行っております。また散歩も随時しております。	随時全員でドライブに出掛けている。コロナ禍で、例年のような外出、外食はできないが、花見や新緑、紅葉を車内から眺めて季節を感じ楽しんでる。庭のコスモスを眺めたり、見晴らしの良いウッドデッキから景色を楽しんだりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は全て事業所で管理しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や知り合いに手紙を書きたいと申し出がある際には希望が叶う様支援しております。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の空間として一人部屋を提供しております。また、皆で生活する空間には、季節に合った装飾を心掛け、季節を感じて頂ける様支援しております。	壁には、季節感のある掲示物が飾られたり、ゆったりとしたソファが配置され、くつろげるスペースを設けている。換気をこまめに行い、温・湿度も管理している。日めくりカレンダーや時計が見やすいように設置している。管理者の提案で、作り始めた千羽鶴が沢山飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には椅子が多く配置されております。また仲の良い方とお話しが出来る食席を提供しております		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の配置は本人様と相談して決めています。また自宅で使用されていた物を持参して頂いております。	居室は畳敷きで、エアコン、洗面台、タンス、ベッド、スプリンクラーが設置されている。壁には写真や作品が飾られ居心地の良い空間になっている。毎朝職員が掃除し、夜にはモップがけをしている。居室担当が衣替えなどを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口に名前を表示しております。また居室の隣にトイレが配置しますので、自らトイレへ迷わずに行かれる配置となっております。		